



みんなの「なんなの?」を伝えるこども記者のための新聞(毎月1回発行)

信毎こども記者ニュース



びーのちゃん

発行/連絡先

こども記者クラブ(信濃毎日新聞地域活動部) 〒380-8546 長野市南県町657
TEL 026-236-3110 FAX 026-236-3193 電子メール t-chiiki@shinmai.co.jp

no.62

むずかしい…でも楽しい! 組み木おもちゃを作ったよ

みんな、木のおもちゃは好き? こども記者10人が、自分の好きな動物をデザインに、糸のこで板を切り抜き、組み木のおもちゃを作りました。先生は、組み木おもちゃを作り出したデザイナー、小黒三郎さん(78) =倉敷市=と、小黒さんの作品を展示する館を自宅に作った、池田憲一郎さん(67) =中野市、組み木おもちゃを子どもに教え続けている白川雄三さん(64) =茅野市。汗だくで、自分だけの作品を完成させたよ。



「自分の手で作るおもちゃ」

松本恭佳記者 長野市5年

ハムスターが親子でねているようすをかきました。糸のこぎりで切ってみると、すごくおもしろくて、思い通りにいかず、はみだしてしまったりしたけれど、がんばってできました。色をぬって完成しました。こんなにむずかしいとは思ってもよらなかったの、びっくりしました。プラスチックや、機械で作るおもちゃがふえているけれど、木を使い、自分の手で作る組み木のおもちゃの先生たちは、すごいと思いました。



「形が簡単、でもあきない」

井上広章記者 長野市6年

ほくが作ったのは犬の親子です。母犬が、子犬をかかえているような形です。一番うまくできたのは子犬で、生まれたてのように、かわいらしくできました。小黒先生は、「頭、手、心の三つを大切に、考えながら作りましょう」と話しました。そして、形が簡単であきず、遊び方がいろいろできるのが、組み木おもちゃの特ちょうだと、教えてくれました。



「ここは、すばらしいところ」

秋山真穂記者 長野市5年

小黒さんは、いろいろなことを教えてくれました。中でも、3Hのことが頭に残っています。3Hは、頭と手、心のことです。先生が、「組み木作りで一番、体のどこを使ったかな?」と聞いた時、頭を使ったことは分かりましたが、ほかは思い当たりませんでした。でも、小黒さんの言葉を聞き、よく分かりました。心は、遊ぶときにもよく使うし、人の心を思いやりたり、想像する、すばらしいところだと思います。



「しぜんの木でかわいいおもちゃ」

松本夏奈記者 長野市2年

きょうしつがはじまったとき、どきどきしました。おもしろくないでしまったので、ちょっとくやしうたけれど、先生がてつだってくれて、がんばりました。できたら、自をいれて、色もぬりました。一ばんをきめるとき、わくわくしましたが、ほかの人になりました。いちばん心にこったことは、しぜんの木をつかって、かわいいおもちゃをつくれたことです。こんどは、なかないでつくりたいです。



「友達にプレゼント」

池田亜加理記者 山ノ内町5年

小黒さんや池田さんが、やさしく教えてくださいました。私は「ネコの親子」を作りました。お母さんネコの中に、子どもが乗っています。作り終わって休んでいたら、小黒さんがいらっしやり、「まりをつけようか」といい、残った木に、丸をかいてくださいました。まりを足すと、ぐんと良くなりました。うれしかったし、やっぱり小黒さんはすごいなあ、と思いました。できあがった組み木は、友達にあげようと思います。

